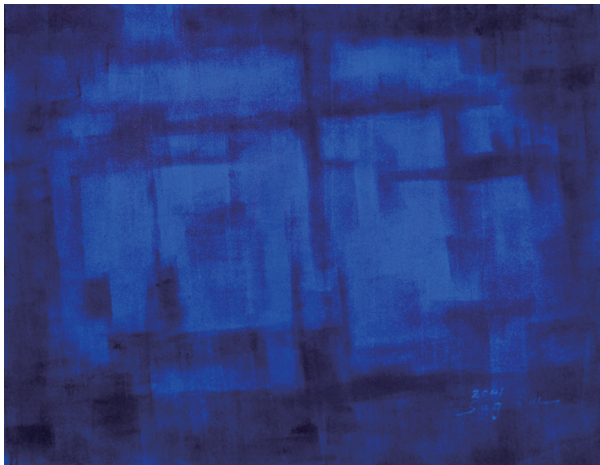


杉村 英一 展 未知なる空間を追い求めた北の異才

2016年10月1日(土) ~ 11月27日(日)

●会場：萬鉄五郎記念美術館



《風地01-5》 アクリル絵具・木綿 2001年

杉村英一(1926-2004)は、1950年代より個展を行い、60年代には、盛岡の美術グループ「集団N39」の一員として活躍し、岩手の美術シーンをリードした一人です。ステンレスによる立体作品や、鉛筆による黒一色のドローイング、晩年のブルーの平面作品など半世紀にわたり多才な才能を見せ続けてきた杉村の、初の大規模な回顧展を開催します。

●休館日 月曜日(月曜が祝日の場合その翌日) ●開館時間 8:30 ~ 17:00(入館は16:30まで)

●入館料 一般500(450)円、高校・学生300(250)円、小・中学生200(150)円 *()内20名以上団体料金



《作品66》 鉛筆・紙 1982年頃



《作品6》
ステンレス・アクリル絵具・ペニヤ 1968年

「杉村英一展」関連イベント

コンサート「トリオ・ヴィオレ」

- 日時 11月12日(土) 16:00～ 《参加無料》
- 会場 萬鉄五郎記念美術館展示室
- 出演 トロンボーン/吉原正教、テナーホーン/吉原美輪子、ピアノ/三神樹美

土澤アートクラフトフェア

アート作品・クラフト作品などクリエイターのお店300組が大集合！

- 期日 2016年10月29日(土)30日(日) 10:00～16:00 (最終日は15:30まで)
- 会場 萬鉄五郎記念美術館前庭&土澤商店街



美術市場 ニューヨーク、パリでも買えないもの ここにあり

美術品200点の展示・販売。あなたのオフィスに、自宅に、大切な方への贈り物に、絵画・彫刻・版画を。

- 期日 2016年10月29日(土)～11月6日(日) 10:00～16:00 (最終日は15:30まで)
- 会場 新斎ホール 岩手県花巻市東和町土沢8区74 花巻市役所東和総合支所となり
- 「土澤アートクラフトフェア」「美術市場」 問合せ先

土澤アートクラフトフェア事務局 岩手県花巻市東和町土沢5-405「キクヤ」内 ☎0198-42-2632
メール tuchizawa_market@yahoo.co.jp ホームページ <http://arttsuchizawa.com/> ブログ <http://arttsuchizawa.blog.fc2.com/>

喫茶「八丁土蔵」



萬鉄五郎の自家「八丁」にあった土蔵を移築復元し、ギャラリーと喫茶スペースとして活用しています。自慢のオリジナルコーヒー「蔵」「八丁」を、ぜひ一度ご賞味ください。 営業時間：10:00～16:00 (lo.15:30)

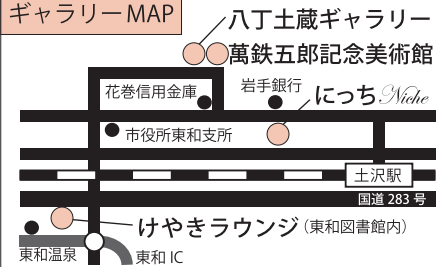
美術の街「土沢」 ギャラリー情報

「美術の街」土沢めぐりをしてみたいはいかがでしょうか。

【10・11月の土沢イベント情報】

10/29-30 花巻市民芸術祭展示部門、11/3 東和町
芸能発表会・神楽大会、11/12・13 とうわ産業まつり

ギャラリーMAP



萬鉄五郎記念美術館

八丁土蔵ギャラリー

花巻市東和町土沢 5-135 萬鉄五郎記念美術館内

9:00-16:30 月曜休 (祝日の場合は翌日) 入場無料

杉村英一 展

未知なる空間を追い求めた北の異才

10/1 (土) ~ 11/27 (日)

岩手の美術シーンをリードした画家・杉村英一
(1926-2004) の半世紀にわたる画業を紹介する。



Gallery Space けやきラウンジ

花巻市東和町安俣6-90 東和図書館内 tel.0198-42-3205

10:30~18:00 (最終日は16:00まで) 入場無料

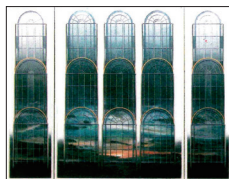
Windowsシリーズによる

五十嵐 彰 遺作展

10/1 (土)

~ 10/29 (土)

鮮やかな色彩を残して吹
き過ぎた風に敬愛の念
を込めて。



第5回

玄平窯の仲間たち 展

10/30 (日)

~ 12/3 (日)

例年大好評。東和町・
小通の穴窯の仲間た
ちによる迫力ある新作。



世界の雑貨とギャラリー

にっち Niche

花巻市東和町土沢8-115こつばら土澤 tel.080-4516-4643

10:00~17:00 火曜定休 入場無料

ソーロ 森の生活展

11/2 (水) ~ 11/14 (月)

古典『ウォールデン 森の生活』。ソーロの簡素
な生き方を、写真、絵を通して紹介します。

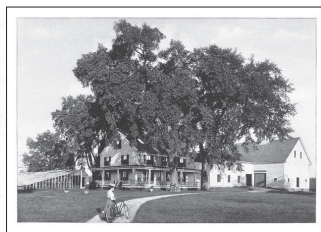
【にっちイベント情報】 東和総合福祉センターにて

10月23日 (日) ハンズ・アラキ・トリオ
アイリッシュ音楽ライブ

11月6日 (日) 東家一郎浪曲口演会



ヘンリー・ソーロ



コンコードの町とニレの木

美の祭典

リオデジャネイロが終わり、今度は東京へとオリンピックに関心が集まっている。オリンピックはアテネから300キロ離れたオリンピアで発祥した。

ギリシャは平地が少なかったことから前8世紀の頃、それぞれの地域に都市国家(ポリス)が生まれ、その市民はポリスを守るために体を鍛えた戦士であった。ポリス間の争いが絶えず、オリンピックは競技会のとみだけお互い「休戦」を誓い平和の祭典とした。

そのオリンピックは千二百年の長きに渡って続けられてきたが、ローマ帝国でキリスト教が公認され、やがて国教化されると385年の大会を最後に廃止された。その千五百年後、古代オリンピックが復興され、クーベルタン男爵の提唱で1896年、アテネ大会から近代オリンピックが始まった。

そもそも古代ギリシャでは、オリン

ピックはスポーツの祭典である以前に「宗教上の祭礼」の一部であった。ギリシャ人は特有な宗教観をもっており「神は人と同じ心と体を持っている」(神人同形)と考えた。人間の理想的な姿は、神につながるもつとも尊いものであった。競技会で一番早く走ることが出来る男(現代ならホルトのような)や高く跳ぶことができる男は、神々の加護を受けているからできると考えた。優勝した選手は、神々の加護に感謝して自身の姿を、当代一流の彫刻家に制作してもらい神域に奉納した。一糸まとわぬ裸の姿で表されたギリシャ芸術の「人間主義」の誕生である。

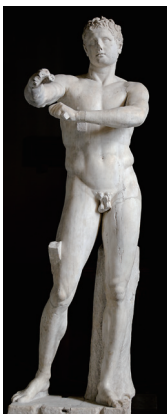
ギリシャ美術のクラシック期を代表する彫刻家の一人リュシッポスの『汗をかき落とす人』は、競技の前に香油を塗り、運動後、ヘラなどの道具で体をこすり汗と泥を掻き落としている像である。八頭身のプロポーションで自然な動きとその内面の深みを見事に表現している。ギリシャ彫刻は、人体の法則をさとり自由な創造精神で制作、その像は西洋美術の原点となりカノン(規範)とも言われる。

ギリシャが前146年、ローマに征服され属州になったとき、ローマはすぐれたギリシャ美術を破壊することなく受け入れ継承し、著名な彫刻家の作品を盛んにコピーした(ローマンコピー)。古代ギリシャ、ローマは多神教であったが、394年にローマでキリスト教(一神教)が国教になった途端に、優れたギリシャ彫刻や神殿が異教徒のものとして破壊され、オリンピックも廃止された。唯一絶対の神を信じる一神教は他の神を認めないので、現代においてもイスラム国(IS)による古代遺産パルミラの神殿などの破壊が行われている。

歴史は繰り返す。

萬鉄五郎記念美術館長 中村光紀

*参考文献 「西洋美術館」小学館 人体表現の始まり 平山東子



リュシッポス
『汗を掻き落とす人』
(原作は前320年 ローマンコピー)
ヴァチカン博物館蔵

萬鉄五郎記念美術館 岩手県花巻市東和町土沢 5-135 Tel.0198-42-4402 8:30am. ~ 5:00pm.

yorozu00@cocoa.ocn.ne.jp <http://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/501/503/p004177.html> 月曜休館 (祝日の場合その翌日)

発行人/東和町土沢商店街商店会連絡会会長小原茂明